

## 本書の特色

この本は、前学年の学習内容を中心につくられた新中学2年生のためのテキストです。基本的な力をつける問題から、応用・発展的な難易度の高い問題まで盛り込まれているため、これまで学んできたことを効果的に身につけることができます。

また、講習準備テストと総合確認テストがついていますので、苦手分野の把握や最後の効果測定に役立ててください。

## 本書の使い方

- **ポイント整理**……その課で学習する内容をまとめています。きちんと理解していきましょう。
- **確認問題**……ポイント整理で学習した内容を踏まえたうえで、基本的な問題に取り組みます。
- **演習問題**……演習問題Aと、さらに発展的な演習問題Bの二つの問題で構成されています。文章をしっかり読み取り、設問に取り組むことで、自信をつけていきましょう。また、「思考力問題」には◎をつけています。
- **漢字のトレーニング**……高校入試で頻出の漢字で構成されています。
- **総合問題**……本書の総まとめの問題です。

## もくじ

## 国語中2

1 説明的文章(1)	2
2 説明的文章(2)	8
3 文学的文章(1)——小説	14
4 文学的文章(2)——随筆	20
5 詩歌	26
6 古典	32
総合問題	38

## ポイント整理

## ★登場人物をおさえる

- ① 人物が登場したら、そのつどマークしておく。
- ② 文脈をとらえ、マークした人物のうちのだれの行動か、だれの発言をおさえる。

## ★主語や助詞の省略に注意する

古文では、主語や「が・は」などの助詞が省略されていることが多い。

例 これも昔、右の顔に大きなこぶある翁ありけり。大かうじのほどなり。(これも昔のことだが、右の顔に大きなこぶがある老人がいた。「そのこぶは」大きなみかんほどであった。)

## ★現代語との意味の違いに注意する

- ① 古文特有の語(現代語にはない語)
- いと…とても いみじ…はなはだしい  
とし…はやい つきづきし…似つかわしい
- ② 現代語と形が似ていて意味の異なる語
- ありがたし…めったにない うつくし…かわいい  
おどろく…目が覚める・気がつく ののしる…大騒ぎする

## ★漢文の読み方

- ① 送り仮名…漢字の右下にカタカナで示す。
- ② 返り点…読む順序を示す記号。漢字の左下に示す。
- ◎レ点…一字上に返って読む。
- 例 春 眠 不 覚 曉 ↓ 春眠曉を覚えす
- ◎一・二点…二字以上隔てて上に返って読む。
- 例 五 十 而 知 天 命 ↓ 五十にして天命を知る
- ※「而」は、置き字といい、読まない文字。

## 確認問題

☆ 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

〈原文〉

一院、鳥羽殿にわたらせおはしましけるころ、みさご日ごとにいできて、池の魚を取りけり。ある日、これを射させむとおぼしめして、「武者所に誰か候ふ」とお尋ねありけるに、折節むつる候ひけり。召にしたがひてまゐりたりけるに、「この池に、みさごのつきて、おほくの魚をとる。射とどむべし。但し射殺さむ事は無慙なり。鳥も殺さず、魚をも殺さじとおぼしめすなり。あひはからひてつかうまつるべし」と勅定ありければ、いなみ申すべき事なくて、即ち罷り立ちて、弓矢を取りてまゐりたりけり。矢は狩候にてぞ侍りける。池の汀の辺に候ひて、みさごをあひ待つところに、あのごとく来て、鯉を取りてあがりけるを、よく引きて射たりければ、みさごは射られながら猶ほ飛びなへければ、みさごの魚をつかみたる足を、射切りたりけり。鳥は足は切れたれどもただちに死なず。魚もみさごの爪たちながら死なず。魚も鳥も殺さぬやうに勅定ありければ、かくつかふまつりたりけり。凡夫のしわざにあらずとて、叡感のあまりに禄を給ひけるとなむ。

(注) 一院…鳥羽上皇。

鳥羽殿…鳥羽上皇の離宮。

みさご…タカ科の鳥で、鋭い爪で魚をつかみとる。

武者所…鳥羽殿を警護する武士の待機所。

むつる…人名。

狩候…矢の先を二股にして内側に刃を付けたもの。鳥や獣などを射るのに用いる。

腹白…あおむけになって白い腹を出した形。

(橘成季「古今著聞集」より)

〔現代語訳〕

鳥羽上皇が、離宮に滞在していらつしやつたころ、みさごが毎日やって来て、池の魚を取っていた。ある日、これを〔A〕とお思ひになつて、「武者所に誰かいるか」とお尋ねに〔B〕、そのときちやうどむつるがお控えしていた。お呼び出しに従つて参上したところ、「この池に、みさごが居ついで、多くの魚を取つている。射とめよ。ただし、射殺すようなことは残酷だ。鳥も殺さず、魚をも殺したくないとお思ひになつているのである。よく考え定めて成し遂げ申し上げよ」と仰せがあつたので、お断り申し上げることもできなくて、すぐに退出して、弓矢を手にして参上した。矢は狩俣でございました。池の水際みづぎわの辺りに控えて、みさごを待つてゐるところに、予想どおりにやつて来て、鯉を取つて上がつて行つたのを、よく引きしほつて射たところ、みさごは射られたままでもなおも飛んで行つた。鯉は池に落ちて、白い腹を出して浮いていた。そこで取り上げてご覧に入れたところ、みさごが魚をつかんだ足を、射切つたのであつた。鳥は足は切れたけれどもすぐには死ななかつた。魚もみさごの爪は立てられたけれども死ななかつた。魚も鳥も殺さないようにという仰せであつたので、このようにいたしましたのだつた。ただの人の行いではないと言つて、ご感動のあまりにほうびをお与えになつたということだ。

□(1) — 線①「まゐりたり」、②「あひはからひて」を現代かなづかいに直しなさい。

①

②

□(2) — 線③「勅定ありければ」とありますが、「勅定」は「上皇の仰せ」の意味です。上皇の発言の内容にあたる部分を原文中から探し、初めと終わりの五字を書き抜きなさい。

)

□(3) — 線ア)エのうち、主語が同じものを二つ選び、記号で答えなさい。

□(4) — 線④「よく引きて射たりければ」とありますが、むつるはどのようなことに注意して矢を射たのですか。それがわかる言葉を原文中から十字書き抜きなさい。

)

□(5) — 線⑤「かくつかふまつりたりけり」とありますが、「かく」が指しているむつるの行つた具体的な行動がわかる部分を、原文中から書き抜きなさい。

□(6) A・B にあてはまる現代語訳をそれぞれ七字以内で答えなさい。

B

A

□(7) この文章で筆者が強調したかしたこととして最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 鳥や魚といえども生き物の命を奪うことはしたくないしさせたくないと考えて、見事に問題を解決した一院の人間性の高さ。
- イ 実現は困難とも思える課題を、奇抜な発想とそれを支える人並み外れた弓の腕前の確かさで成し遂げたむつるのすばらしさ。
- ウ どんなに困難な状況に置かれても、主君のために忠誠を尽くすという武士の自分を見事に果たしたむつるの意志の強さ。
- エ 実現は不可能とも思える課題を、必ず成し遂げるに違いないと見込んでむつるに任せた一院の人物を見る目の確かさ。





1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

心なしと見ゆる者も、よき一言いふものなり。ある荒夷あらいびのおそろしげなるが、かたへにあひて、「御子おこはおはすや」と問ひしに、「一人も持ち侍らず」と答へしかば、「さては、ものあはれは知り給はじ。情なき御心にぞものし給ふらんと、いとおそろし。子故ゆゑにこそ、万よろづのあはれは思ひ知らるれ」と言ひたりし、<sup>④</sup>さもありぬべき事なり。<sup>\*</sup>恩愛の道ならでは、かかる者の心に慈悲ありな⑤んや。孝養けうやうの心なき者も、子持ちてこそ、親の志は思ひ知るなれ。  
(兼好法師「徒然草」より)

(注) 荒夷：荒武者。 恩愛：親子の情愛。

□(1) — 線①「あひて」を現代かなづかいに直しなさい。

□(2) — 線②「一人も持ち侍らず」と答えたのはだれですか。文章中から書き抜きなさい。

□(3) — 線③「知り給はじ」を現代語訳しなさい。

□(4) — 線④「さもありぬべき事なり」とありますが、筆者はどういうことを言いたいのですか。最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 子を持つことですべての情愛を自覚するということ。
- イ 子を持たないからといって情愛がわからないわけではないということ。
- ウ 子を持たない人は心が冷たいところがあるということ。
- エ 子を持たない人を一方的に批判はできないということ。

□(5) — 線⑤「かかる者」とは、だれを指していますか。文章中から書き抜きなさい。

□(6) — 線⑥「慈悲ありなんや」の現代語訳として最も適切なものを次から

- ア 慈悲の心はあるに違いない
- イ 慈悲の心があつてほしい
- ウ 慈悲の心があるだろう
- エ 慈悲の心はあるはずがない

□(7) この文章で述べられている内容を表すことわざとして最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 孝行のしたい時分に親はなし
- イ 親の心子知らず
- ウ 子を持つて知る親の恩
- エ 子はかすがい

2 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

A 示しに云はく、昔、国こく皇わう有り。国を治めて後、諸臣下しよしんに問ふ、「我われよく国を治む、賢けんなりや否いなや。」

諸臣皆云はく、「帝ていは甚ていだよく治む。」  
 一人の臣ありて云はく、「帝、賢ならず。」  
 帝云はく、「故ゆゑ、如何いかん。」

臣云はく、「国を打ち取りし時、帝の弟にあたへずして、息いきにあたふ。」  
 帝かの心こゝろに適あたはずして、追おひ立たてられて後、又一人の臣に問ふ、「朕みづか、よく仁になりや。」  
\*臣云はく、「甚ていだよく仁なり。」

帝云はく、「その故は如何。」  
 臣云はく、「仁君には忠臣有り、忠臣は直言あるなり。前まへの臣、甚ていだ直言ちつげん」

なり、是忠臣なり。仁君にあらざは得じ。」  
すなはち帝、是を感じて、前の臣を召し返されぬ。

〔懷辨「正法眼藏隨聞記」より〕

この文章は、鎌倉時代の禅宗の僧道元どうげんの話を弟子の懷辨えいへんが忠実に記録した『正法眼藏隨聞記』という書物の一部である。「示に云はく」とは、「師が修行者・弟子などに教えを説き示す」という意味で、ここでは、道元は中国の思想・学説を集めた書物の内容をもとに話をしている。原本の『正法眼藏隨聞記』は、漢字と片仮名で書かれ、ところどころ漢文体的部分が含まれている。Aの文章には、次のような文章が続いている。

B 又云はく、秦の始皇しんの時、太子花園を広げんとす。

臣の云はく、「もつともなり。もし花園広ふして鳥類多くは、鳥類をもて隣国の軍をふせいつべし。」よつて其の事とどまりぬ。  
又、宮殿をつくり、はしを塗らんとす。

臣の云はく、「もつとも然るべし。はしを塗らたらば、敵はとどまらん。」  
よつて其の事もとどまりぬ。  
云ふ心は、儒教の心にうきょうのこころ 如<sup>レ</sup>是<sup>レ</sup>。巧みに言を以て悪事をとどめ、善事をすすめしなり。衲子の人を化する善巧として、其の心あるべし。

〔懷辨「正法眼藏隨聞記」より〕

Bの文章では、太子が花園を広げようとしたり階段を塗ろうとしたりするのを臣下が「A」として勧めているのに、太子は中止している。これは、  
原典の中国の書物では、鳥類に敵の相手をさせたり、階段を塗って敵を惑わそうとするのは滑稽なこととして受け止められたと説明されている。

A・Bの話に共通しているのは「B」ということである。道元は、臣下のこのような話の仕方は、仏教の説法にも応用できると述べているのである。

〔注〕よく国を治む…国を治めることができる。

故、如何…どういふわけなのか。 息…息子。 心に適はず…気に入られず。

朕…私。 仁…情け深い。

仁君にあらざは得じ…情け深い主君でなければ持てないでしょう。

35

30

25

20

太子…皇太子。 ふせいつべし…防ぐことができましょう。  
はし…階段。 衲子…禅僧。 化する善巧…教え導くうまい方法。

□(1) 線①「追ひ立てられて」の主語をこれより前の文章中から二字以上  
五字以内で書き抜きなさい。

-----  
-----  
-----

◎(2) 線②「直言なり」とありますが、だれのどういう意見を「直言」だ  
と言っていますか。

-----  
-----  
-----

□(3) 線③「召し返されぬ」を現代語訳しなさい。

-----  
-----  
-----

□(4) 線a～dの「の」のうち、意味・用法の異なるものを一つ選び、記  
号で答えなさい。

-----  
-----  
-----

□(5) 線④「如<sup>レ</sup>是<sup>レ</sup>」の読み方をすべてひらがなで答えなさい。

-----  
-----  
-----

□(6) Aにあてはまる言葉として最も適切なものを次から選び、記号で  
答えなさい。

- ア 敵を攻撃すること      イ 敵が降伏すること  
ウ 善いこと                  エ 平和的なこと

□(7) Bにあてはまる言葉を古文中から一文で探し、初めの五字を書き  
抜きなさい。

-----  
-----  
-----